

# 第66回熊日賞贈呈式



## ● 伴 征子、第66回熊日賞受賞

(2016.7.7 ホテル日航熊本)

学術、教育、文化、スポーツ、社会などの各分野で長年にわたって活躍し、地域の発展などに貢献した個人や団体などを顕彰する熊日賞が、当研究所代表の伴 征子に授与されました。大きな災害に直面した中、明るいニュースとなりました。

平成28年(2016年)6月26日 日曜日 熊本日 10

第66回熊日賞を満屋裕明氏(学術)、伴征子氏(芸術)に贈呈いたします。同賞は学術、教育、文化、スポーツ、社会などの各分野で長年にわたって活躍され、地域の発展などに貢献された個人や団体に熊本日日新聞社が贈っています。贈呈式は7月7日(木)午前11時から、熊本市中央区のホテル日航熊本で行い、顕彰盾と副賞50万円を贈ります。

【23面に受賞者の横顔】

### 第66回 熊日賞受賞者決まる

満屋 裕明氏 国立国際医療研究センター(東京)研究所長



1975年、熊本大医学部卒。博士号を取得後、米国立衛生研究所に留学。上級研究員時代の85年、世界初となる3種類のエイズ治療薬の発見、開発に成功し、エイズに対する化学療法の基礎を築いた。97年に熊本大医学部教授に就いてから、日米を行き来しながら、多剤併用療法の開拓、新薬の開発などを続け、エイズ治療の研究に大きな成果を収めている。2007年慶應医学賞、15年日本学士院賞。16年3月に熊本大を定年退官。4月から同大特別招聘教授、現職などを兼任。65歳。



伴 征子氏 熊本バレエ研究所代表

8歳で三橋蓮子舞踏研究所に入門。1968年、23歳で熊本バレエ研究所の3代目代表に就任以来、バレエの普及と若手の育成に努めている。69年から「サマーバレエコンサート」を開始。75年には「熊本バレエ劇場」による公演活動を始め、代表演出である「くるみ割り人形」はこれまで84ステージを数え、熊本冬の彩る風物詩として全国に知られる。また、上海市舞踏学校の協力による日中合作舞台をつくり上げるなど、国際交流にも貢献。県文化協会常務理事。本名・原武征子。熊本市在住。71歳。